意見聴取会　意見陳述申込書

天塩川流域委員会　宛

天塩川の河川整備・管理について、次のとおり意見を述べたいので申し出します。

平成17年 3 月18日

1. 意見陳述申込者

ご氏名（ふりがな）　　年齢 71 歳　性別 (男)・女

ご住所　旭川市

2. ご意見

私は、３０年以上にわたり道北地方で渓流釣りをしてきております。
渓流釣りの対象の魚は、以前はイワナが主でしたが、ここ十数年はヤマベが中心です。
私はこれまでの間、多くの死んだ川を見てきました。私は「魚がいない川は死んだ川」と考えております。
最近の私のヤマベ釣りは、釣りの数の大小にあまり関心がなく、ひとつの川ではどこまでヤマベやサクラマスなどが遡上しているかが、大きな関心事となっております。
~~この３０年間で、死んだ河川を多く発見してきました。~~昨年は、雄武川の最上流で堰堤の工事が開始されているのを発見し、またひとつ北海道の川が死ぬことになったことに、大きな悲しみと憤りを感じたところです。魚の遡上を妨げている最大の原因は、ダムや堰堤の建設です。新しい川に入り、突然眼前に巨大なダムや堰堤を発見した時の衝撃は、釣り人でなければわからないことでしょう。
私のこれまでの印象は、大半のダムや堰堤は不要なもので、単に行政の公共事業費消化のためにすぎないと考えております。
天塩川水系の各支流にも、私は永年足を踏み入れております。今この水系の河川整備において、一番懸念していることは、サンルダム建設工事です。
ここになぜダムを建設しなければならないのか？ダム建設の決定までに、多方面にわたる関係者の十分な議論を経たのか？生態系への影響は調査したのか？洪水への治水を主目的しているようだが、マヤカシでないのか？等々建設には疑問が多く感じられる。
サンル川に毎年サクラマスの遡上産卵を見て来た私には、ダム建設でサクラマスの遡上ができなくなることは、きわめて悲しい。主として机上プランで建設を計画してきた開発局の人間には、このような釣り人の気持ちがわからないだろう。
近年、自然に対する大規模工事を行う場合、そこにある生態系の変化に十分視点を置かなければならないと考えている。すなわち生物学者とりわけ魚や鳥類などの研究者の意見を聞く必要がある。これは河川工事を行う場合も例外ではない。
天塩川の流域委員会の委員の顔ぶれをみて、魚類研究者の顔が見えないようだが、これは委員会構成の上で片手落ちである。
次にこの委員会の今後の進め方について以下にいくつか提言したい。
1，もっと魚類を中心とする専門学者の意見をきくこと。
2，ダムの建設工事を一時中断し、さらに生態系の調査を進めること。
3，魚道の効果の研究を進めること。（効果がほとんどない魚道もある）

最後に開発局を含め、行政の姿勢の欠点を指摘したい。行政も人の集団である以上、誤りがあって当然であると私は考える。ただ官僚や行政の最大の欠点は、メンツにこだわり、後日判明した誤りを素直に認めない硬直した態度であろう。
北海道の優れた特徴の一つは、豊かな大自然が残っていることであったが、それが次々と破壊されて来ている。サンルダムの建設も、その例である。
知床の世界自然遺産登録に、多数のダムの撤去の条件がつけられているが、もうこれ以上ダム建設は、止めるべきである。公共事業と言えばダム建設という思考をもう捨て、行政は北海道の大自然をどう保護するかという、発想の転換をはかるべきである。そして既存のダムすべてに、自然保護という観点から再評価をし、その結果を公開し、必要に応じ今後はダムの撤去をも考えるという、勇断ある決意をぜひ望みたい。